

科技高 STEAMプロジェクト

デザイン史×歴史総合

ウィーン分離派(Wiener Secession)と
板東俘虜収容所のデザインについて

本時の流れ

①板東俘虜収容所とは？

②ウィーン分離派とは？

③板東俘虜収容所での芸術活動（印刷物）とウィーン分離派のデザインの類似性について

④まとめ

①板東俘虜収容所とは？

板東俘虜収容所のあった時代

年代		できごと
(西暦)	(元号)	
1902	明治35	日英同盟の締結
1904	37	日露戦争勃発
1905	38	ポーツマス条約の締結（日露戦争終結）
1906	39	鉄道国有法
1907	40	ハーグ密使事件
1909	42	伊藤博文暗殺
1910	43	韓国併合条約締結 大逆事件
1911	44	日米新通商修好条約（関税自主権回復） 辛亥革命
1912	大正1	中華民国建国
1913	大正2	大正政変（第一次護憲運動）
1914	大正3	ジーマンス事件 第一次世界大戦勃発（日本参戦）
1915	大正4	中国へ二十一カ条の要求
1916	大正5	
1917	大正6	ロシア革命
1918	大正7	シベリア出兵 米騒動
1919	大正8	ヴェルサイユ条約締結 （第一次世界大戦の講和条約）
1920	大正9	国際連盟成立

第一次世界大戦

板東収容所

板東俘虜収容所設立の背景

第一次世界大戦では日英同盟に従い、ドイツと戦争



全国6ヶ所の収容所に、約5,000人のドイツ人捕虜を収容、そのうちのひとつが板東俘虜収容所。約1,000人を収容した。(1917～)



小松島港に上陸した捕虜



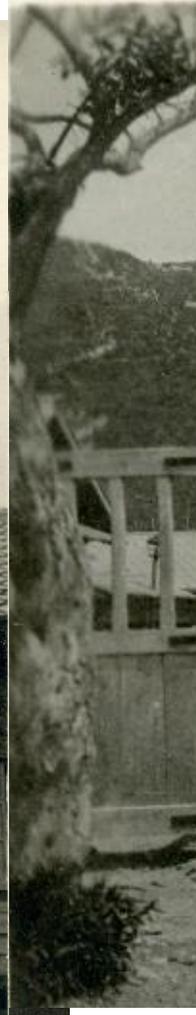
古川橋を渡る捕虜

※以降、当時の写真は鳴門市ドイツ間所蔵「板東俘虜収容所関係資料」

①板東俘虜収容所とは？



収容所居住棟（バラック）



バラック内の様子



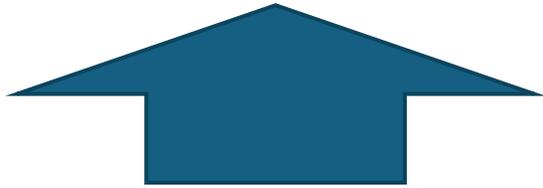
正門

①板東俘虜収容所とは？

- ・板東のドイツ人捕虜の日課（『大正三年乃至九年戦役俘虜取扱顛末』の記述より）

〔日課〕

午前	7 : 0 0	起床	
	7 : 3 0	点呼	(所在確認)
	9 : 3 0	診断	(健康確認)
			(自由行動)
午後	5 : 0 0	夕点呼	(所在確認)
	1 0 : 0 0	消灯	



基本的にはこれだけ。
あとは収容所側の許可があれば、所内外で自由に活動することができた。





酒保（収容所内売店）



所内の洗濯屋の様子



肉屋の前の行列



所内の料理店で食事する士官



所内の菓子店ゲーバの様子

①板東俘虜収容所とは？

- ・ 毎日の活動

〔前述『俘虜取扱顛末』の記述より〕

「(前略) 彼らは忍耐強く、研究心すこぶる旺盛にして、常に体力を錬り、学修に努め、音楽を奏して自らを慰撫し…(後略)」



「捕虜として生きることにも勤め」
スポーツ、印刷出版、音楽活動など



ファウストバルの様子



遠足での水泳の様子



所内のサッカーチーム



器械体操



組体操



陸上競技大会

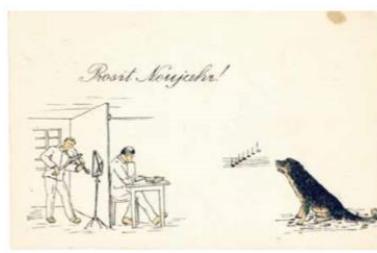
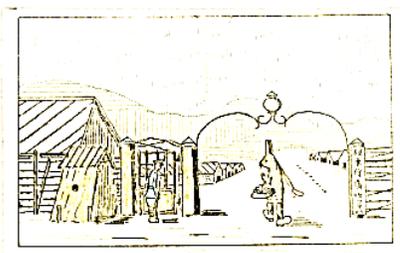
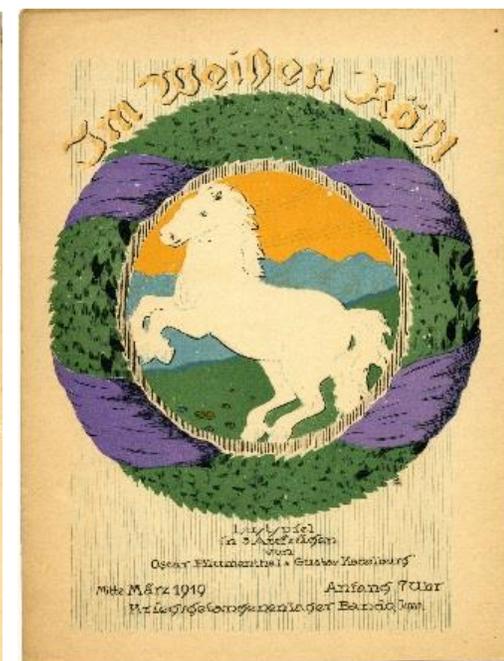
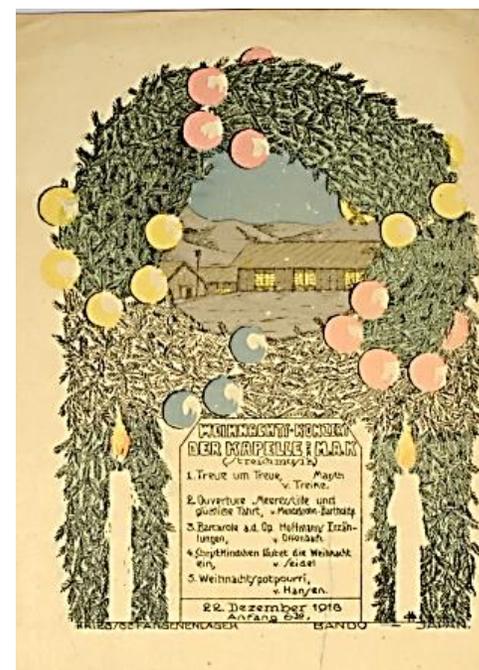
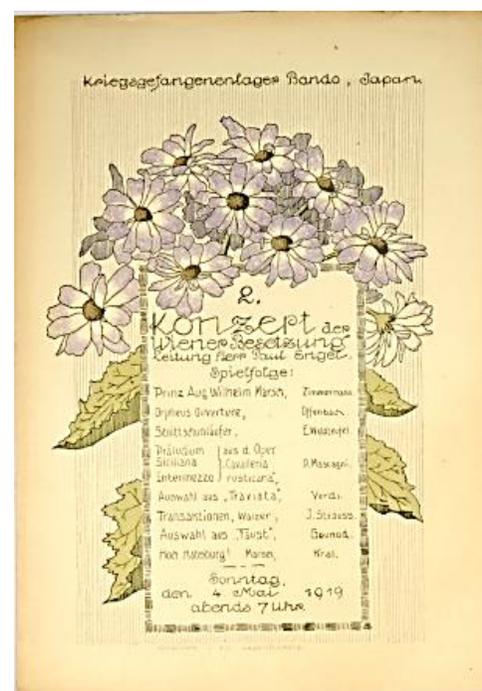


收容所内印刷所の様子



所内新聞 『ディ・バラック』

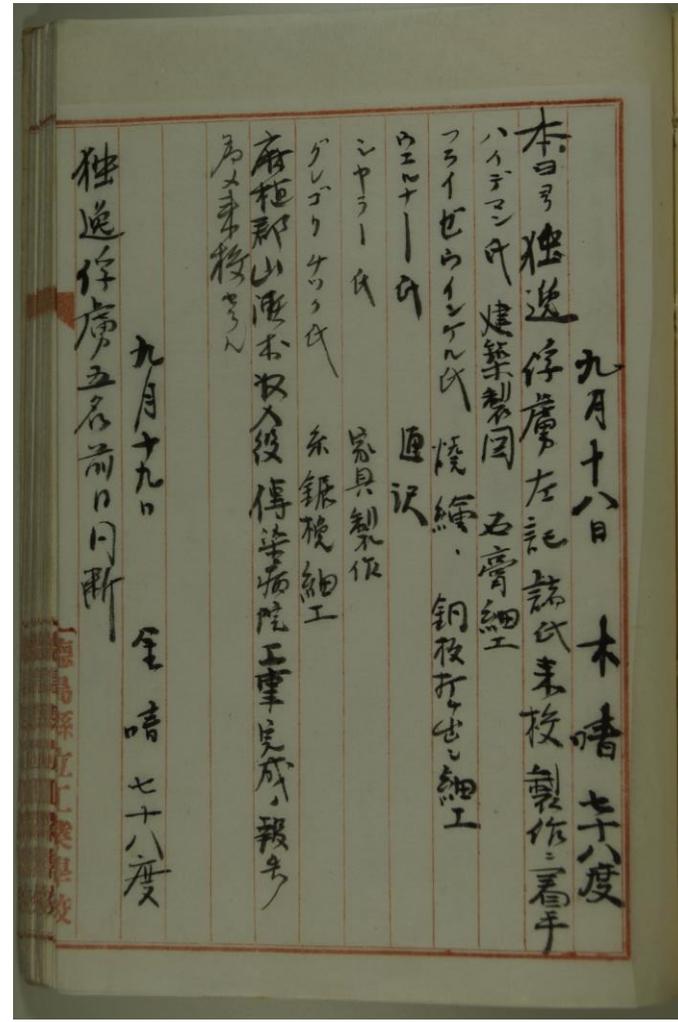
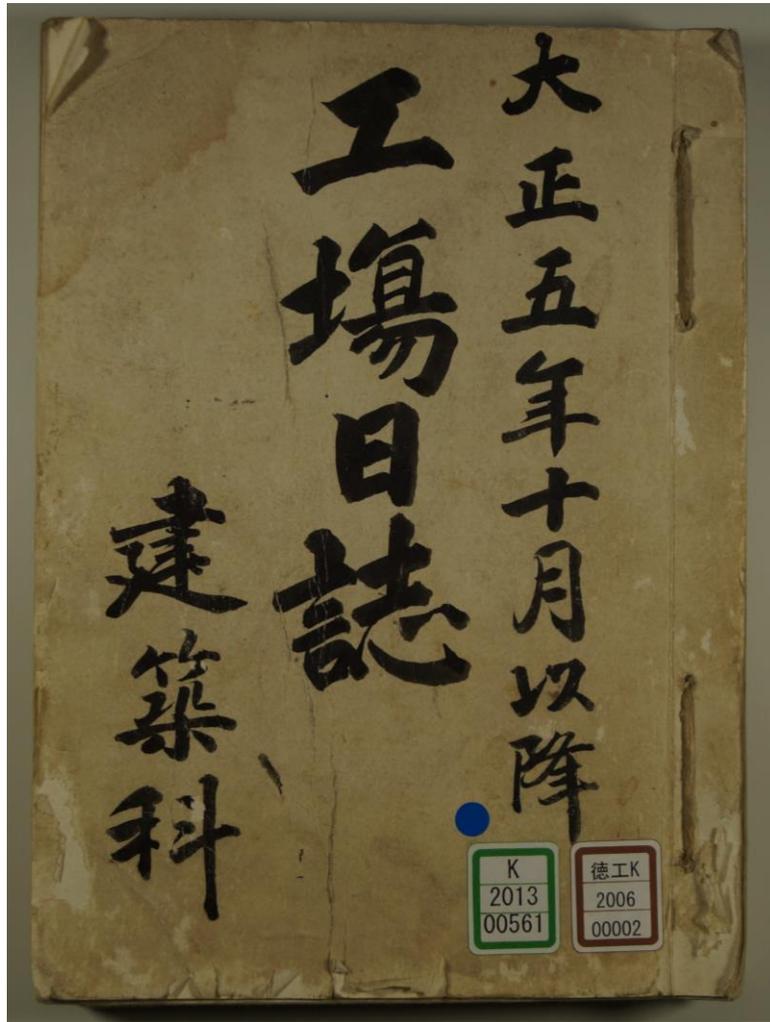
書籍『三つの童話』



絵はがき

音楽コンサート、演劇 プログラム

①板東俘虜収容所とは？



当時の徳島県工業学校（現．徳島科学技術高校）建築科の日誌。ドイツ兵が同校に訪れて、労務で製品製作したと記事にある。期間は延べ2ヶ月間に及び、通訳を介して、学生への技術指導を行ったとされている。

(左：表紙、右：大正8年9月18日の記事)

②ウィーン分離派とは？

ウィーン分離派(Wiener Secession)

：19世紀末(1890年代)、ウィーンを中心に活動した、保守的な芸術家協会に不満をもった芸術家が結成した、革新派のグループ。

= ゼツェツションとはドイツ語で「分離」の意味。



ウィーン分離派の面々（1902年の展覧会での集合写真）
左から右に、アントン・ノヴァク、**グスタフ・クリムト**（椅子）、**コロマン・モーザー**（クリムトの前、帽子着用）、アドルフ・ベーム、マクシミリアン・レンツ（横臥の姿勢）、エルンスト・シュトール（帽子）、ヴィルヘルム・リスト、エミール・オルリック（座った姿勢）、マクシミリアン・クルツヴァイル（つば無し帽着用）、レオポルド・シュトルバ、カール・モル（横たわった姿勢）、ルドルフ・バッヒャー。

②ウィーン分離派とは？

中心メンバー：グスタフ・クリムト（画家）
ヨーゼフ・ホフマン（建築家）
オットー・ワグナー（建築家）
コロマン・モーザー（デザイナー）
マックス・クリンガー（彫刻家）

などの多様な芸術家集団が、既存の保守的な芸術界に対し、“DER ZEIT IHRE KUNST, DER KUNST IHRE FREIHEIT”（時代には芸術を、芸術には自由を）のモットーを掲げて展開した芸術運動
→のちのウィーン工房、アーツアンドクラフト運動にもつながる。

②ウィーン分離派とは？

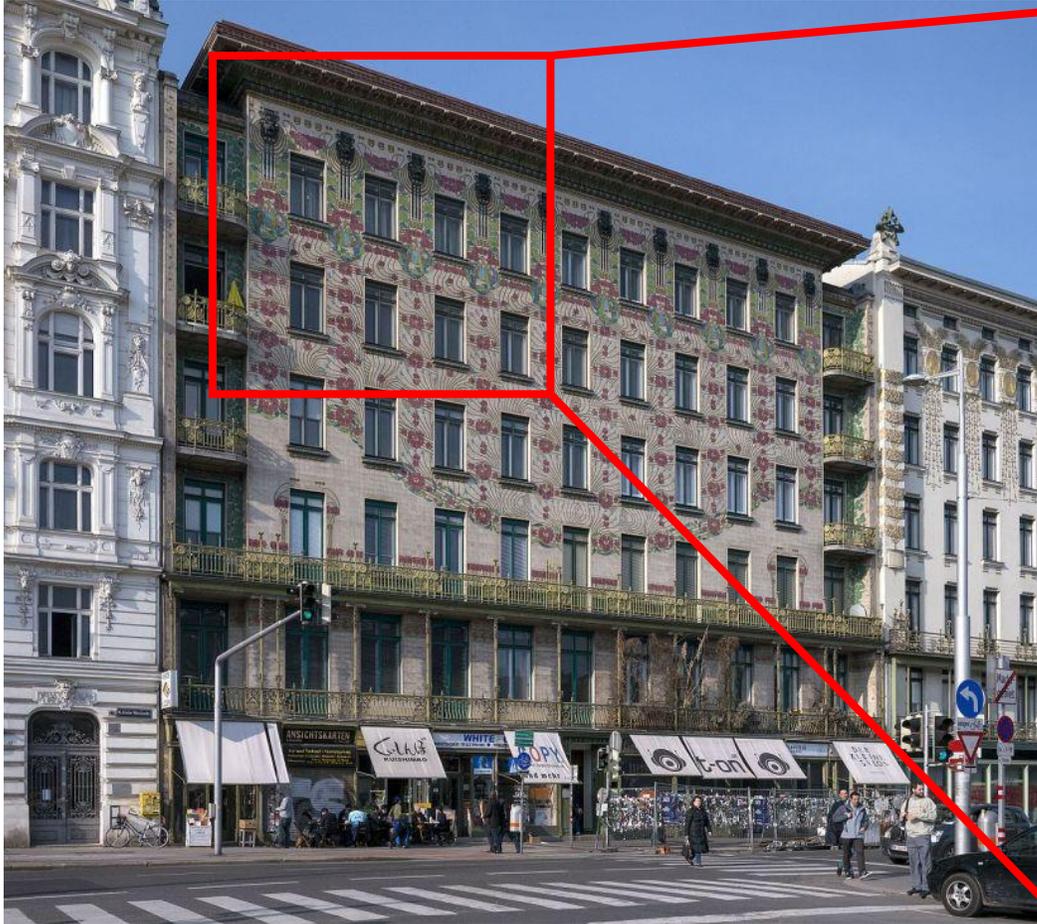


ゼツェッション館；分離派の展示場
1898 オーストリア ウィーン



プルカースドルフのサナトリウム（屋内）
1904 オーストリア プルカースドルフ
設計: ヨーゼフ・ホフマン

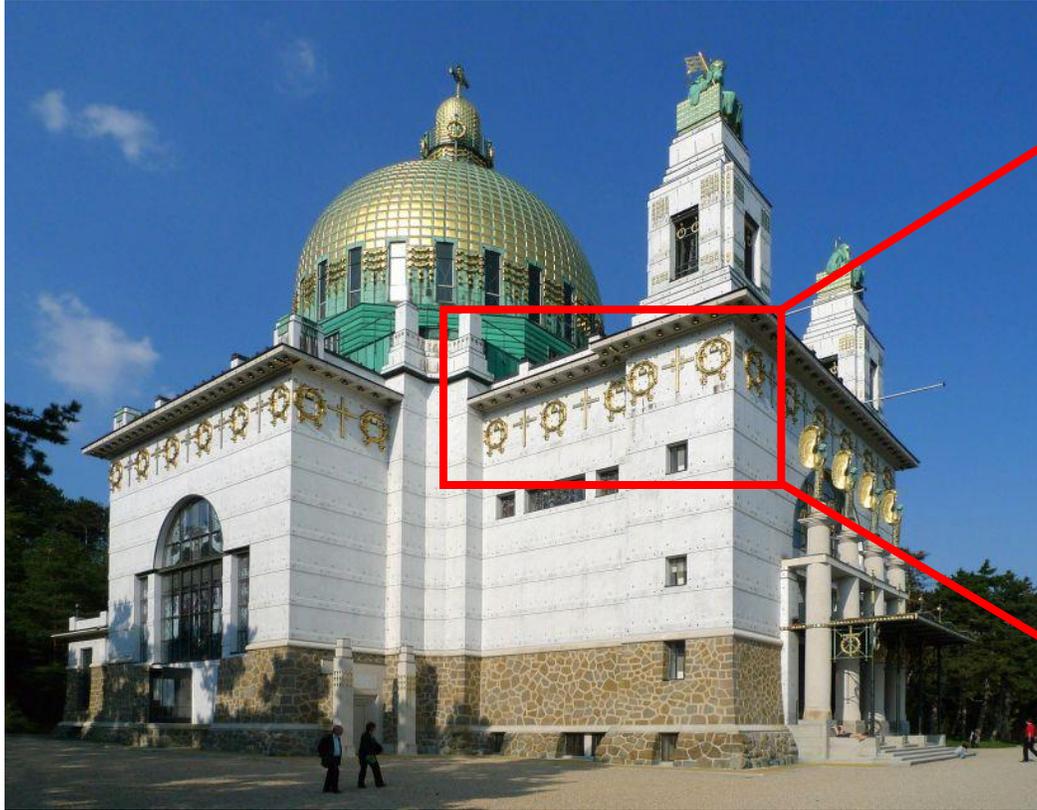
②ウィーン分離派とは？



マジョリカハウス
1899 オーストリア ウィーン
設計:オットー・ワグナー

拡大図

②ウィーン分離派とは？



拡大図

シュタインホーフの聖レオポルド教会
1907 オーストリア ウィーン
設計:オットー・ワグナー

②ウィーン分離派とは？

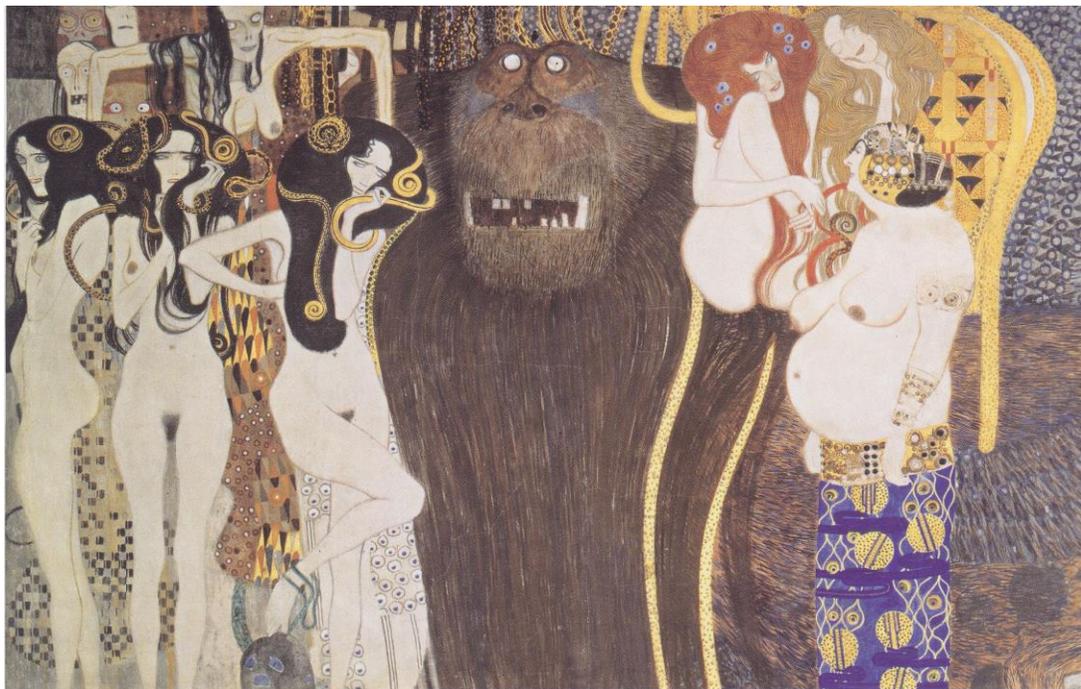


アームチェア 1903頃
プラハ=ルドニカー社製
デザイン:コロマン・モーザー

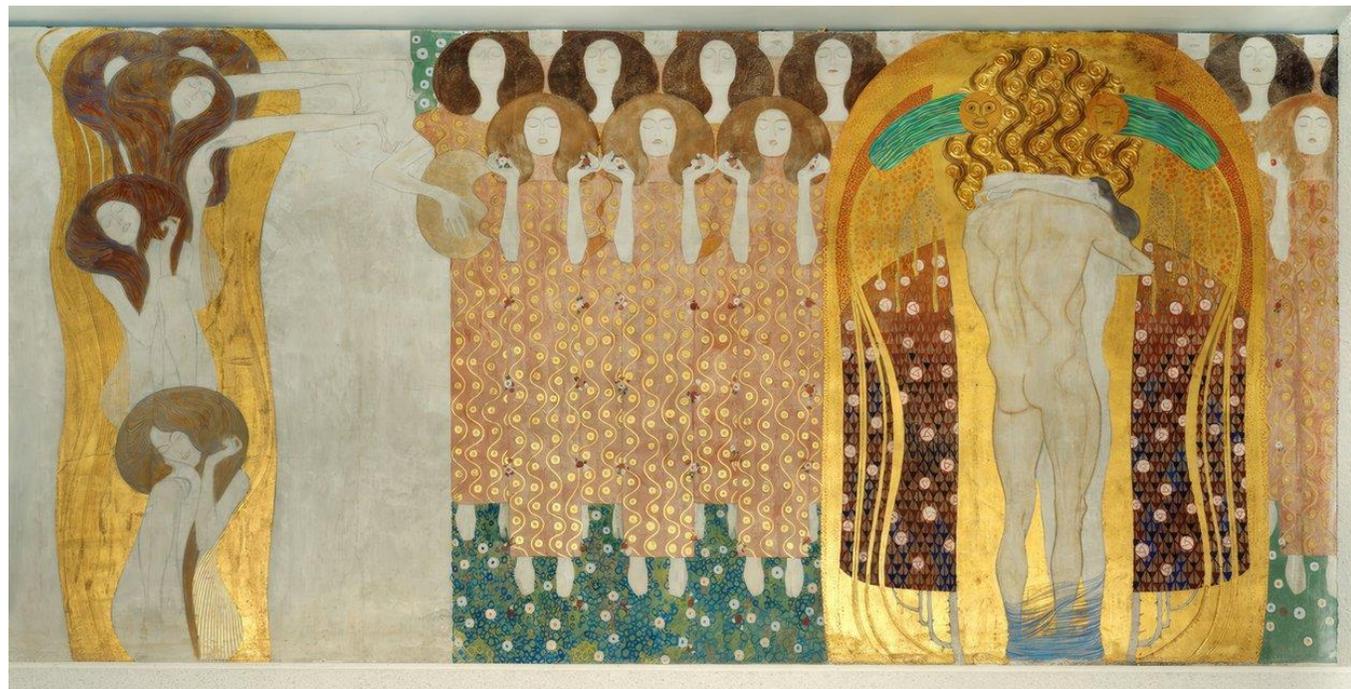


コロマン・モーザーのグラフィックデザイン

②ウィーン分離派とは？



「敵対する勢力」



「歓喜の歌」

壁画『ベートーベン・フリーズ』 1901
作画グスタフ・クリムト

1901年、オーストリアの作曲家ベートーベンに焦点をあてた第14回ウィーン分離派展示会を開催。《ベートーヴェン・フリーズ》はこの展示会のために描かれたものである。

作品はベートーヴェン第九交響曲にもとづいており、3つの部分に分かれている。「幸福への憧れ」（左の壁）に続き、「敵対する勢力」（中央の壁）、そして「歓喜の歌」（右の壁）が描かれており、それらがホールの中の3つの壁面の上半分にフリーズ状に連なるよう構成されている。

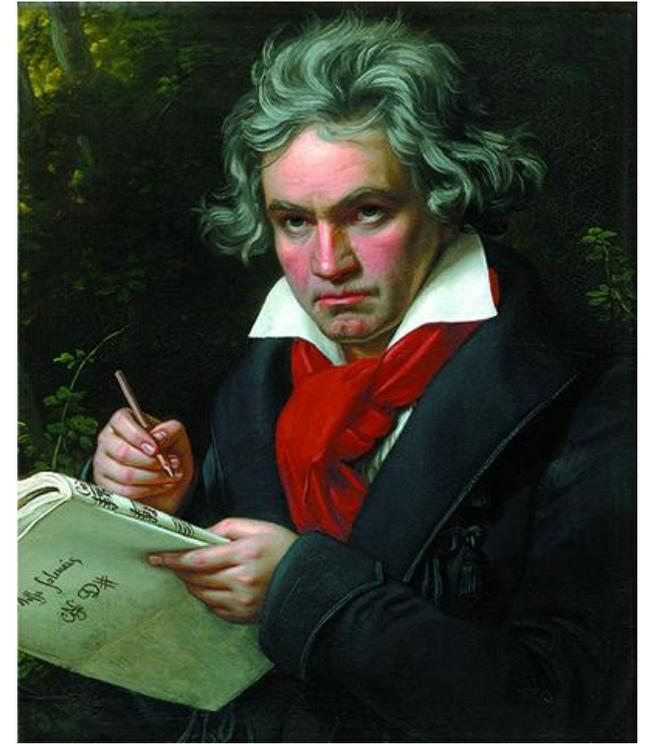
②ウィーン分離派とは？



彫像 ベートーベン像 1902
制作：マックス・クリンガー

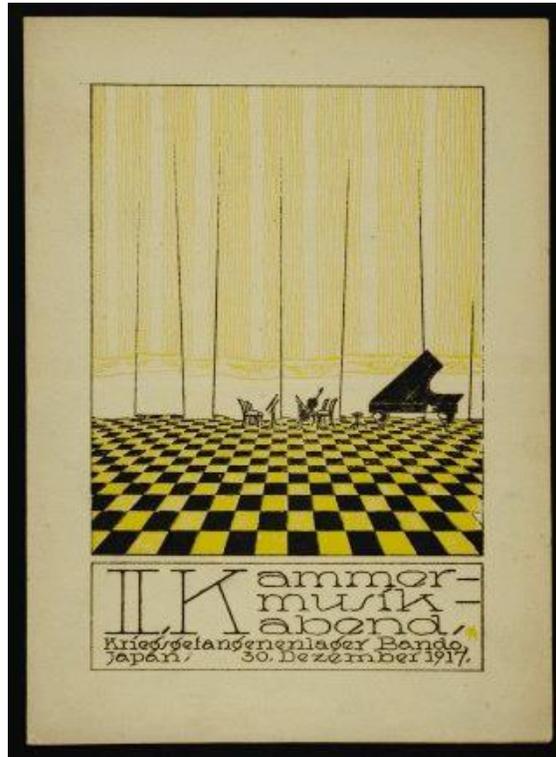
ウィーンに分離派館が完成した翌年の1899年、ベートーヴェンを顕彰するためのブロンズと大理石を組み合わせた像の制作に着手。制作が始まったころから大変な前評判が立ち、6年の歳月をかけ、1902年、分離派館での第14回分離派展で公開された。

当時、分離派最大の課題として掲げる『総合芸術』の名の下、マックス・クリンガーのベートーヴェン像を中央ホールに展示し、その左翼の部屋にクリムトの「ベートーヴェン・フリーズ」を展示することで、ワンフロアー全体が、クリンガーの《ベートーヴェン》像を中心とした芸術空間として創造された。

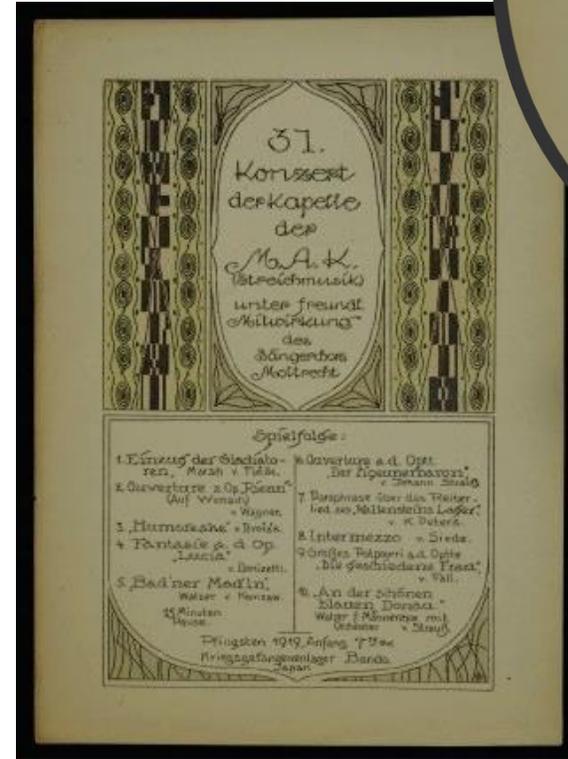


③板東俘虜収容所での芸術活動（印刷物）とウィーン分離派のデザインの類似性について

(1)幾何学模様のデザイン



コンサートプログラム
第2回室内楽の夕べ

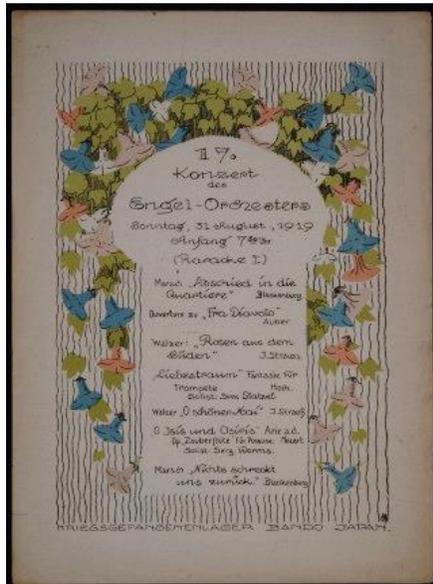
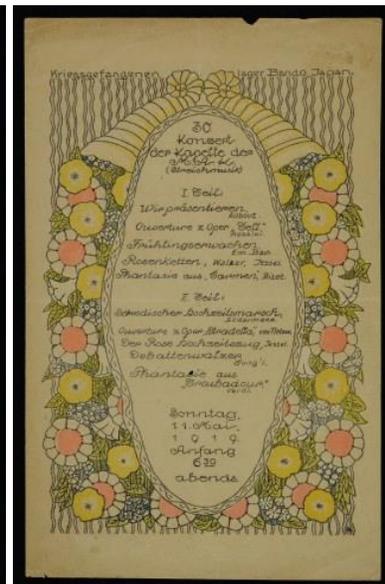
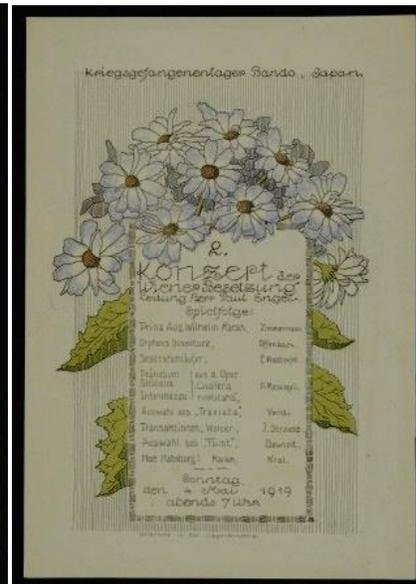
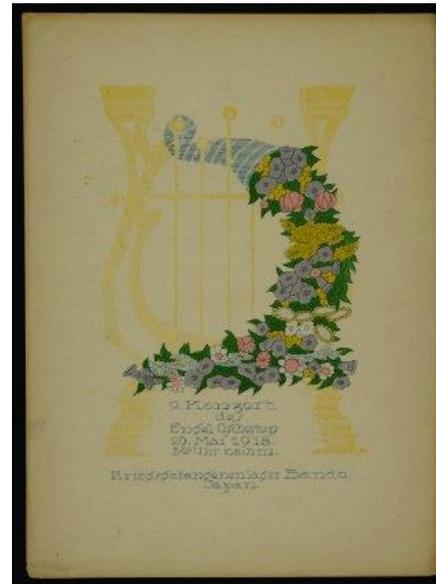
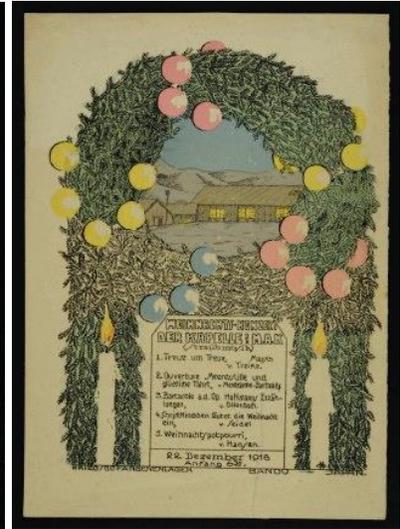
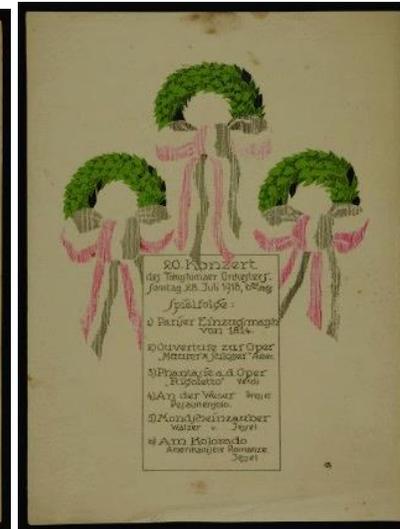
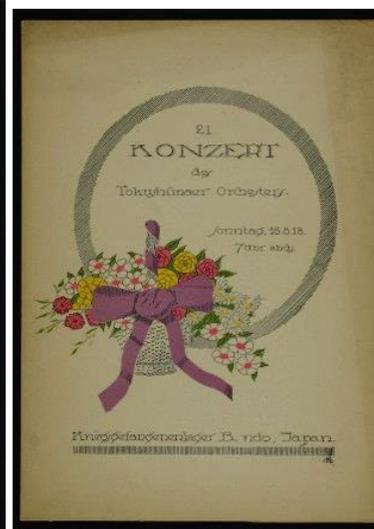
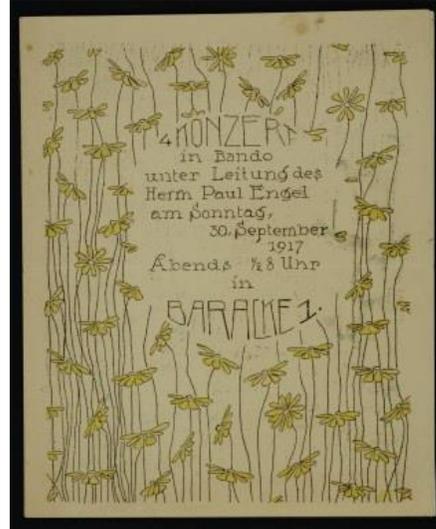


コンサートプログラム M.A.K.オーケストラ
(弦楽) 第31回コンサート



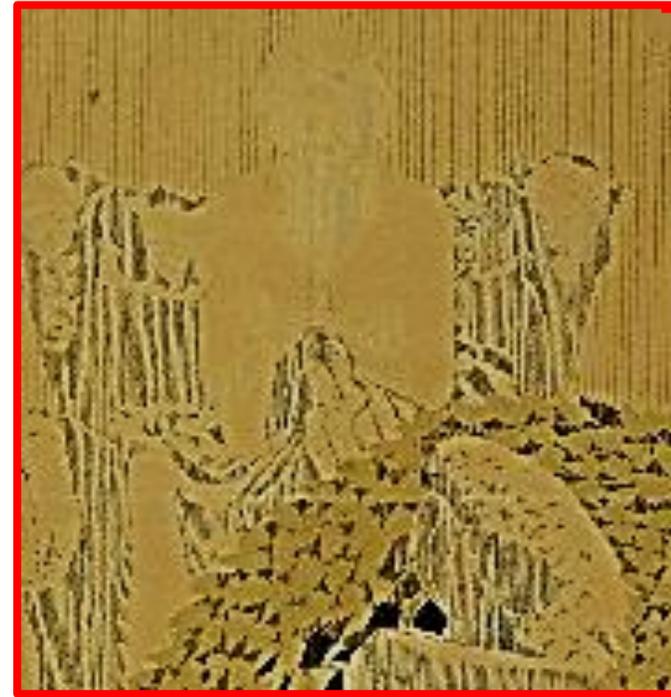
③板東俘虜収容所での芸術活動（印刷物）とウィーン分離派のデザインの類似性について

(2)花と円環のモチーフ

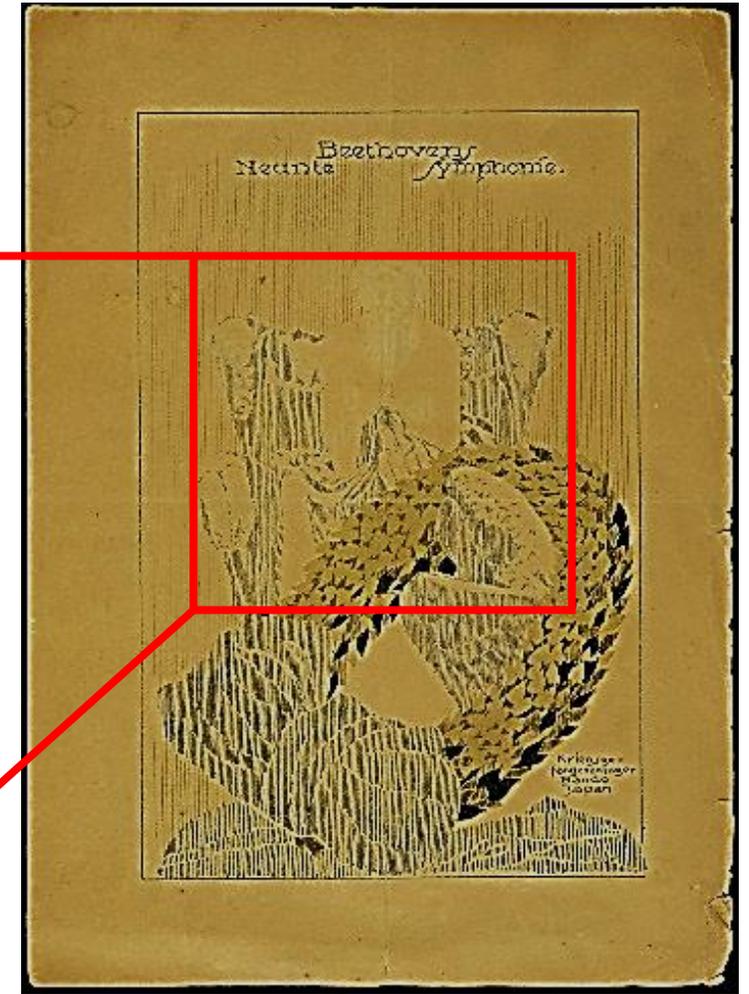


③板東俘虜収容所での芸術活動（印刷物）とウィーン分離派のデザインの類似性について

(3)分離派展へのオマージュ



拡大図



第九コンサートのプログラムに、マックス・クリンガーの彫像をモチーフにイラストを制作

コンサートプログラム 徳島オーケストラ第2回シンフォニー・コンサート（第18回）ベートーヴェン『第九交響曲』

④まとめ

- ・ウィーン分離派に影響を受けた捕虜が印刷物のデザインを行い、数多くの作品を残す。

当時の捕虜たちの間では流行っていた？

- ・4年以上に渡る捕虜生活のなかで、コンサートや演劇のプログラム、絵はがきなどの印刷物をつくる文化活動があり、その中でアート性・デザイン性の高い作品が作られていたということ。

捕虜という特殊な状況のなかでも、人は生活の中に
アート・デザインを求めるとのこと

④まとめ（おまけ）

ただし、忘れてはならないのは、

かれらはやはり「捕虜」なのだ、ということ。

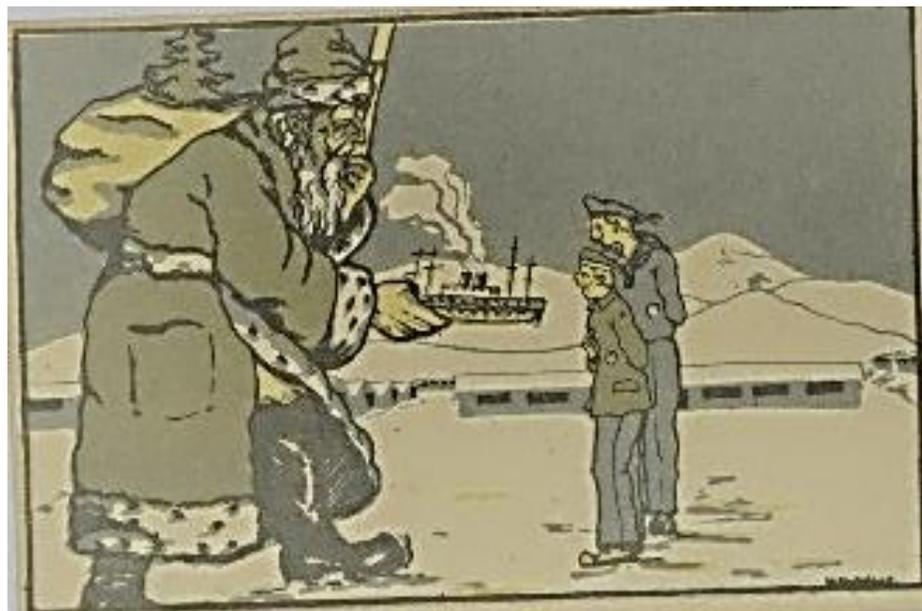
捕虜であることのつらさ、故郷に帰れないことのつらさを示す資料も多々残されている。



↑ (右) スケッチ集『鉄条網の中の4年半』
捕虜生活での出来事を詩と絵で綴る。規則
に縛られた生活についても記述。

← (左上) 鉄条網越しに撮った写真 (近隣住民が様子を窺っている)

← (左下) 所内で発酵されたクリスマスカード
プレゼントされているのは帰国のための船



④まとめ（おまけ）

- ・世界的に見て、これほど人道的に捕虜を取り扱った事例は非常に少ない。
- ・当時、戦争当事国の国民がこれほどに交流した事実、さらには、その後現代に至る交流が続いている事例は稀である。

一方で、捕虜はすべての自由を認められたわけではない。望郷の念や、遠く離れた家族に体する心配、先の見えない不安などにより、精神的に厳しい状況に追い込まれることもある。

大事なことは、当たり前だが、戦争を起こさないこと、ということ改めて確認しておきたい。